

村の世帯・人口

昭和48年10月31日現在

総世帯数 2,424戸

人 口 11,278人

男 5,679人

女 5,599人

当月の人口移動

出生 26 死亡 5

転入 73 転出 38

婚姻 8 離婚 1



はらに報広

発 行 所

西 原 村 役 場

電話 (098995) 2401

2582・2583

印 刷 所

桑 江 印 刷 所

電話 (098995) 2365

一、村 政 情 報

- ① さとうきび値上直訴団 帰沖 1
- ② 村畜産共進会振わう 2
- ③ 南部地区消防操法大会 村消防団員健斗 3
- ④ 昭和四八年秋季全火災予防運動 3

二、村民の広場

- ① 西青連駅伝大会終る 5
- ② 熱弁をふるう校内童話大会 6
- ③ 火花散る村第一回少年野球大会 6
- ④ タイムス展 (図画・作文・書道) 入賞者 8
- ⑤ 一鉢運動 西小 8

三、告 知 板

- ① 西中体育館建設に協力しましょう。 9
- ② 保健ニュース 9

節 水 に 協 力 し ま し ょ う。

村 政 情 報

キビ代値上げ直訴団帰沖

去る、十一月五日、約十日間にわたるキビ代値上げの直訴を、国会を中心に行なつて来た一千名の大行動団が帰えつてきた。

一行には、本村からも二七名の代表を送り、千名におよぶ代表団に混じつて、連日、精力的な訴え行動を展開した。

しかし、すでに、村民が知るように、キビ代の値上げは、かなり厳しい状況におかれている。

東京での直訴行動は、抗議集会、ビラ配り等、連日にわたりましたが、国会をはじめ、東京都民の反応をうかがうと砂糖キビの存在が、みんなの生活にどうかかわりあっているのか、沖縄において、いかに重要な産業であるか等について認識が低くキビ代値上げの前途がいかに多難であるかを物語っていた。

「砂糖キビは米とは違うのだから同じような保護はどうか」とか、「ああ、パンダの食べものか」などの反応では、あまりにも情けない。

たしかに、現在のキビ作は沖縄において基幹産業とは言え、かなりの低迷を余儀なくされている。

それは、最近のインフレ経済政策とけして無関係ではない。

那覇港のふ頭でたちに行なわれた解団式では、そのことが強く確認され私たちが要求する、一万三千円以上のキビ価格を勝ち取ることは相当、厳しい抵抗に会うかも知れないが県民、すべてが一致団結して、要求貫徹まで斗い抜く決意が新たにされた。

ところで、十一月二〇日出された農林省の告示によると、砂糖キビの最低生産者価格は、トン当り八千



那 覇 港 で 起 声 を あ げ る 直 訴 団

という錯覚をもたらすこの政策は、私たちを愚弄するものである。しかも、仮りに一步譲ったとしても、要求には、はるかに遠く、私たちのキビ産業の前途を暗いものとしている。

農林省の告示から今年度のキビの価格を出してみると次の通りです。

	生産者最低価格	奨励金	合 計
ブリックス 19度以上	8,700円	1,300円	10,000円
16度以上19度以下	7,640円	1,300円	8,940円

七〇〇円と決定されました。この八、七〇〇円が、私たちの要求の一万三千円から、ほどとおいことは言うまでもありません。

確かに数字上は、昨年のトン当り六、九五〇円よりも上がったという形になっていますが、実際には、すべての物価指数が急激に上がっているのに比べほとんど変化のないものということが判明します。

それに政府は、私たちの要求をたんに「お金を沢山もらえばよい」という程度のものと考えてか、トン当り八、七〇〇円に、プラス千三百円を、今回限りという条件つきであげるといふ。

政府の説明では、一、三〇〇円は奨励金ということだが、恩恵が小さい、同情的な、この種の政策を私たちは許してはならないだろう。いかにもキビの価格が一万円に上がる

さてこの二段階のスライド制度、私たちのさとうキビ価格を具体的に考えてみましょう。

昨年の本村におけるキビ作の実績からすると、ブリックス十九度以上のキビは全体の約四〇%で、大半の六〇%が十八度以下となっています。しかも昨年のキビ価格はブリックスに關係なく、パリティー方式（物価指数による一律の価格）をとっていただけに、ブリックスの出し方が甘かったのではと考えられ、それからすると、今年度における十九度以上と十八度以下の比率というのは四対六から三対七と減少が予想されいよいよ農林省告示による、今回のトン当り八、七〇〇円というキビ価格の実態は、ほとんど私たち農業者の生産意欲を高めうるものではなくむしろ圧迫するものいわねばならない。

一日、一人の労働者の人件費はすでに三、五〇〇円と四、〇〇〇円といわれ、それからすると、その他諸経費を入れると、一律八、七〇〇円でも、一万円でも、とうてい私たちの生活は支えきれない。

しかも、現実の農林省告示によるキビ価格は、一律八千七〇〇円でも一万円でもなく、それよりも、なお悪いものである。

農林省の告示通り、今年度のキビ

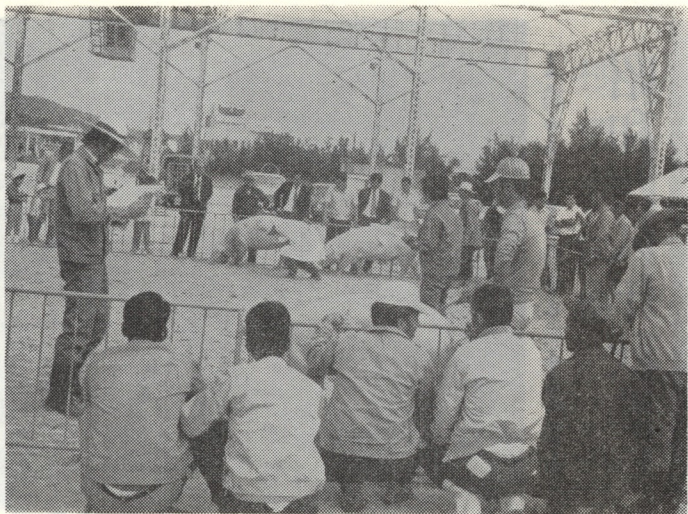
価格が決定されて行くと、私たちが手に取る価格のほとんどが、トン当たり七、六四〇円で、それに政治価格の一、三〇〇円を含めても八、九四〇円、これが実際のキビ価格と見るべきでしょう。

一万三千円の要求は、はるかかなたに輝き、一律一万円の価格さえ錯覚、幻想であるかが、しみじみと理解される訳です。

私たちが要求している、トン当り

盛況の一途

村畜産共進会



「るーウワース、チャーヤッサー」

親睦をもちかり
村内の優秀な豚
牛を一堂に集め
審査し村畜産振
興に役だてるこ
とにあり、年々
大きな成果をお
さめています。
会場には、手し
おにかけた豚二
三頭、牛三三頭
が、あたりをう
めつくし、にぎ
わいを見せまし
た。

午前中に出品
審査が行なわれ
午後二時ごろ表
彰式が行なわれ

ました。その後一般参観に移り四時
ごろまでにございました。

審査の結果は次の通り。

▼肥育牛の部：優等—宮城千代（小
橋川）一等—宮城正雄（小橋川）

宮城正男（小橋川）、与那覇栄幸
（幸地）、二等—翁長俊雄（幸
地）、与那覇正昌（幸地）、泉川

寛仁（上原）、玉那覇栄助（我謝）

一律一三、〇〇〇円のキビ価格は
さらに、現実の物価高騰の社会にあ
っては、最低線のものであります。

我が県で全農業生産高の三九%を
占め、移出農産物の四三%を占め
る、基幹産業としての、キビ作りを
守るために、これからなおいっそう
ねばり強い闘いを展開して行きまし
よう。

▲養牛の部：優等—佐久川正郎（幸
地）、一等—与那覇正一（幸地）
外間亀吉（幸地）

▲繁殖牛の部：優等—喜屋武栄一
（池田）、一等—喜屋武栄光（池
田）、二等—喜屋武善吉（池田）
泉川寛仁（上原）

▲繁殖候補牛の部：優等—喜屋武栄
一（池田）、一等—宮城正男（小
橋川）、宮城良市（小橋川）二等
—稲福三郎（小橋川）、宮城良市
（小橋川）、泉川千代（上原）

▲未經産豚の部：優等—小波津三郎
（小波津）、一等—石原昌英（森
川）、小波津光子（小波津）二等
安座間喜永（森川）、野国昌敏
（池田）、野国敏子（池田）

▲種雄豚の部：優等—呉屋幸助（呉
屋）、泉川寛弘（上原）、安座間
喜進（森川）

▲県有、村有豚の部：優等—城間正
保（兼久）一等—小波津三郎（小
波津）、二等—呉屋幸助（呉屋）

▲経産豚の部：優等—城間正保（兼
久）一等—城間信子（兼久）、安
座真喜進（森川）、二等—安座間
喜永（森川）、石原昌英（森川）
泉川寛弘（上原）

晴れの農林水産部長賞は、経産豚
の部の城間正保氏（兼久）が、沖縄
家畜登録協会会長賞は、未經産豚の部
の小波津三郎氏（小波津）、沖縄畜
産会長賞は、繁殖牛の部の喜屋武栄
一氏（池田）が、それぞれ獲得しま
した。

去る十一月十日、午前八時半か
ら、中部製糖第一工場構内広場で西
原村役場主催、西原農協、西原養豚
組合、西原畜牛組合後援による昭和
四八年度、村畜産共進会が開かれま
した。

この畜産共進会の目的は村内の畜
産農家の所得向上と家畜の改良増殖
をはかると共に、相互の技術交換と

南部地区消防操法大会

村消防団員健斗



法の基本の全万

去る十一月二

日、南風原小学校で、南部地区の十カ市町村の参加の下、昭和四八年度、南部地区消防操法大会が開かれた。

同大会は、各市町村における消防活動の円滑さ、技術の向上をはかるため毎年競技会形式で行われているもので年々、その成果は実り多い

ものとなっている。

同大会に本村は、昨年から参加し、去年は、総合三位という実績を示し、今大会も上位入賞が大いに期待された。

競技は三種目に分れ、本村の消防団は、各種目に善戦健斗した。

基本操法の部では、那覇市に次いで二位、応用操法でも、すばらしい試技を見せ、これまた那覇市に次いで二位と順当な成果を見せたが、着装の部で、思わぬミスがあつて、総合では、那覇、糸満、佐敷、に次いで四位という結果に終わった。

順位の結果にかかわらず、本村消防団のテキパキしたファイトある試合態度は那覇市とともに模範的なものと多くの参観者の拍手をあげた。

昭和四八年秋季

全火災予防運動

「となりにも声かけあつてよい防火」

十一月二六日から十二月二日の期間、昭和四八年秋季全火災予防運動が展開されました。

この運動は、過去にみられる統計上、秋季に火災の発生が特に多く多大の人命、物件に損害を与えてきた事実によつて、今秋季の火災発生防止と人命損傷事故の絶滅を期するため、住民の防災意識の向上を図る目的で行なわれたもの。

火災の恐ろしさは、今さら言うまでもないでしょう。台所の火の始末

子供の火遊び、タバコの後始末、等に日常心を配り防火の習慣をつけるようにしましょう。

今年に入ってから、本村での火災発生状況は次の通りとなっています。

種別 月	原 野	キ ビ 畑	家 屋	被 害 額
2 月		3		¥ 203,000
3 月	2			
4 月	2	1		¥ 30,000
8 月		1	1	

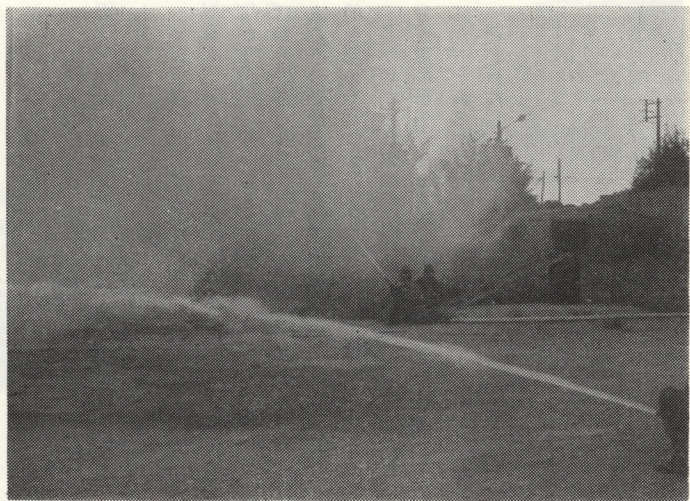
去る十一月十八日(日)午後一時から、西原村青年連合会(会長喜納昌春)主催の第九回、各字対抗の駅伝大会が開かれました。

今大会は、去年までの村内一周のコースから、国道三二九号線をコザ市、コザ高校前折返し、約三〇、二〇〇メートル六区間、で行なわれました。

参加チームは、昨年度優勝の内間チームを初め、棚原、幸地、上原、小波津、津花波、我謝、小橋川、内間(B)の九チームに、オブザーバーとして、中学チーム、三、高校チーム、二の計十四チームで覇が競われました。

十二時半から開会式が行なわれ内間チームの大城友弘選手による力強い選手宣誓の後、午前一時二〇分から、三万メートル余の長いレースの

村民の広場



一分一秒争う消火活動

西青連、駅伝大会終る

火ぶたが切られました。

その日は、快晴の天気にもぐまれ、海からの涼しい風を一身にあびながら選手たちは力走した。

本村の駅伝大会は例年地域ぐるみの盛りあがり強く、今大会も多数の応援者自動車国道にあふれ、選手が走りづらい、というシーンもたびたびみられました。

各区間、平均五、〇〇〇メートルの距離に、落伍者も出るのではと懸念されましたが、十四チームの全選手が、無事、各区間を力走し、いっそう盛り上がりのある大会となりました。

二時間余にわたる激しいレースの結果、内間Aチームが昨年に続き二連勝をかざりました。

結果は次の通りです。

優勝：内間Aチーム、時間二時間四

となりにも

声かけあつて

よい防火

分十九秒、

二位：棚原チーム、二時間八分二三秒、

三位：上原チーム、二時間九分十三秒、

以下、四位小橋川チーム、五位、小波津チーム、六位、我謝チームの順となっています。

その他、オブザーバーチームの健斗が目立ち、二位に、西原中学校野球部が、二時間七十分秒で、三位に我謝高校チームが二時間七十分七秒で輝くという頑張りを見せました。

区間賞は次の選手が獲得しました

一区(六、九〇〇メートル)：宮里正春(棚原)、二六分七秒 二区

(五、一〇〇メートル)：屋良朝則(上原) 二一分三六秒 三区(三、一〇〇メートル)：屋良朝則(上原)、二一分三六秒 三区(三、

一〇〇メートル)：大城孝(内間) 十五分十七秒、四区(五、五〇〇メートル)：城間良信(内間)、二〇

分四八秒、五区(二、六〇〇メートル)：城間盛明(棚原)、十四分四三秒、六区(六、〇〇〇メートル)

：大城正広（内間）、二二分十六秒
 なお、オブザーバーのチームの中
 からも二つの区間に区間賞が生まれ
 した。三区の仲宗根光雄（西中B）、

十四分〇七秒、五区の仲村光義（西
 中野）十三分二五秒、その健斗ぶり
 がたたえられます。



「みなさんの健斗を祈ります！」
 村青連駅伝大会

熱弁ふるう校内童話会

去る十一月十五日、西原、坂田、
 両小学校で、校内童話会が開かれま
 した。

童話会は、話する児童も、聞く
 児童も、みんな真剣でそれぞれの態
 度が学習につながるんだ！と言わん
 ばかりの顔をしていた。

▲西小の場合：運動場の北側で全生
 徒を集めて行なわれました。

各学年から二名の代表が選ばれ次
 の児童たちが、日ごろ練習した話し
 に熱弁をふるいました。

。ひがけんしん（一年生）

「きこりとかみさま」

。万削功（三年生）

「男と男とのやくそく」

。幸地貞（四年生）

「なまけ者のライオン」

。平良和弘（五年生）

「ちびっこ大将」

。弓削敏（六年生）

「親捨て山」

。こうちあやの（一年生）

「のつべらぼう」

。玉城ともよ（二年生）

「なんでも知ったふりをす
 る少女」

。宮平ともえ（二年生）

「かゆのでるなべ」

。新垣桂子（三年生）

「まほうのうぐいす」

。宮平ひろみ（四年生）

「君子さんのクリスマスプ
 レゼント」

。呉屋まさみ（五年生）

「ほらふきたんけん」

。新垣弘美（六年生）

「おかあさん」

みんな、甲乙つけがたく、上手で
 したが、十二月二〇日に坂田小学校
 で行なわれる村童話大会には、
 ▲坂小の場合：西小と同じ日に、体
 育館で全校生徒を集め行なわれまし
 た。

熱弁をふるった児童生徒は次の通

り

。島田けんや（一年生）

「ひつじかいの子ども」

。棚原盛秀（二年生）

「五色のしか」

。安座間喜雄（三年生）

「ろばの話」

。山田正斗（四年生）

「オリンピックのはじま
 り」

。仲宗根仁史（五年生）

「片腕のタックル」

。安座間喜得（六年生）

「夢うりポント」

。与那嶺ゆう子（一年生）

「森のおんがくかい」

。奥間史子（三年生）

「幸わせの王子」

。与那嶺貴子（三年生）

「タンベルグの新曲練習」

。比嘉奈津江（四年生）

「おかあさんのボーナス」

。与那嶺律子（五年生）

「ある日の政夫と健二」

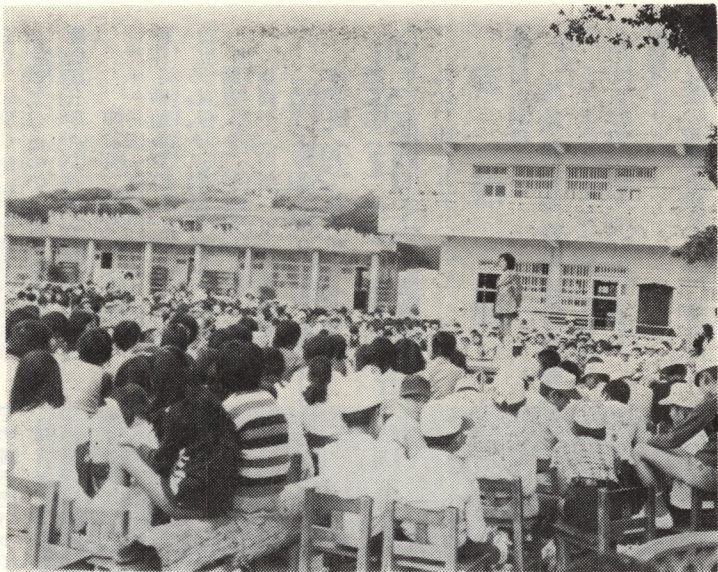
。真栄城末子（六年生）

「夢うりポント」

学年代表の、それぞれの生徒が持
 てる力を十分に発揮し、審査にあた
 った先生方も、大いに苦しみまし
 たが、来たる十二月二〇日に、同校体
 育館で行なわれる村童話大会への代
 表には、島田けんや、棚原盛秀、仲
 宗根仁史、与那嶺貴子、比嘉奈津
 江、真栄城末子の六名の生徒が決ま
 りました。



火花散る村第一回 少年野球大会



「むかし、むかし……」

校内童話大会（西小）

チームの勝利をかけて＝少年野球＝

去る十一月二十三日、金ようび、勤労感謝の公休日を利用して、村教育委員会主催の、第一回、少年野球大会が、西原中学校、西原小学校の二校を使って行なわれました。

村では、初の試みで、少年たちの友情と、スポーツの振興を図るという目的で開かれたもの。

最近、少年たちの草野球も盛況をきわめ、それぞれに、部落単位とか、あるいは、気のあった者同志とかでチームを作り、盛んに練習している風景が、見られただけに、時宜を得た、第一回、少年野球は、予想通りの盛況をきわめました。

参加チームは十六で、大会の進行を良くするために、西中、西小の両会場とも、それぞれ、二つに分け、計四つの競技場を設営しなければならなかった程。

朝九時に開会式が行なわれ、すぐそれぞれの会場で競技が行なわれました。

競技の方法は、小学校一年から六年、中学校一年から三年まで、各一名の選手からなるチーム編成で、投手は小学生がやるという大会要項にそって行なわれた。

大会は、中学生、小学生が入りみだれたのチーム編成だけに、身長もデコ、ボコで、かけ声も、黄色い声からドス声、とバラエティーにとんでいた。

ある試合では、「ある子は小学生ではないんじゃないか、ヒゲもあるし、第一体が大きすぎる」なんて、抗議の声も出て、本人は泣きベソをかく寸前だったとか。

ある選手は、デッドボールを受けて、泣きベソをかいて家に帰える、とだだをこねたとか。

とにかく、ピンチになれば中学生の兄貴分がチビッコ小学生のマウンドに近づいて「まあ気にするな」、「玉をおさえて、落ちついて、」とか、肩をたいたいの激励、仲々心あたたまる光景もいっぱい見られた。

応援する大人たちも、真剣にプレーする小学生、中学生の姿を見て、「日ごろは、やんちゃをして親を心配させている子供たちなのが……、ああもピリッとしたきびきびした顔、動きを、良く見せてくれるものだ……」と感心し、打ちならす拍手も、回を追うごとに激しくなった。

色々な珍プレー、ファインプレー
心あたたまる友情、などでつづられ
た第一回少年野球は多くの村民から
すばらしい催しもので、今後とも開
催してほしいという願望の音が、ウ
ズまく中で無事、その日で終了しま
した。

激戦の斗い抜いて、優勝に輝いた
のは、翁長Aチームで、準優勝は兼
久チームで、その健闘がたたえられ
ました。参加チーム、全員にも、そ
れぞれ参加賞が与えられました。

おながくにこ、いなふくつよし
よなみねもりみつ、おながさと
み、ひがみのる、みやぎエリ、
よなみねやすまさ、よなみねは
るえ、なかそねまさのり
(二年)ーよなみねつとむ、たなは
らもりひで(三年)ー安座間喜
雄、与那嶺貴子、仲宗根良美、
与那嶺京子

沖縄タイムス主催 図画、作文、書道

コンクール入賞者

先に行なわれた沖縄タイムス主催
の図画作文書道コンクールで、本村
の学校からも次あげる生徒のみな
さんが、頑張って入賞しましたので
村民に御紹介して、これからも、う
んと励まして、よりいっそう図画、
作文、書道が向上するよう見守って
行きましょう。

よ子(ク)棚原清美(ク)与那
嶺惣江(ク)沢岬春美(六年)
佳作：(一年)ーおながまさのり、

(四年)ー城間朝美、翁長勲、比嘉
夏代、山田正斗
(五年)ー屋良八重子
(六年)ー金城優子、沢岬昭宏、平
安百合子、与那嶺早苗、宮里勇

一鉢運動

寒さが、だんだんあたりに漂う今
日、このごろですが、去る十一月二
八日(三〇日)にかけて西原小学校で
は、花の一鉢運動が実施されました
この一鉢運動は夏休みに、生徒た
ちに花を造ってもらい、それでもっ
て学園を花いっぱいにするの学園にし

西小

ようというのがねらい。

花の鉢植えは、土造りが肝心だと
いわれますが、その仕事は、父兄の
字掛保久にお住いの弓削次男(南部
農林高等学校教諭)さんが引き受け
て下さって、本村出身の教え子の高
校生を動員してやってもいいました

花の苗は、菊に限
定し、学校の庭園
で成育し、七月末
日に、土わけ、鉢
植えの作業を完了
し、生徒たちは、
夏休み期間中、家
で手入れ、育成す
るため持ち帰りま
した。

〔書道〕

優良賞：小波津弘美(四年)

〔図画〕

優良賞：みいじ みつよ(一年)

仲宗根 ひろみ(四年)

佳作：幸地あやの(一年) 玉那覇ひ

ろし(ク) 呉屋幸枝(一年) 城

間恵(ク) 呉屋博一(三年) 新

里尚子(四年) 玉那覇由美子

(ク) 玉那覇さゆり(ク) 小波

津英勝(ク) 宮平百代(ク) 宮

城克也(ク) 小波津和美(五

年) 小橋川生三(ク) 呉屋吉信

(ク) 仲たみ子(ク)

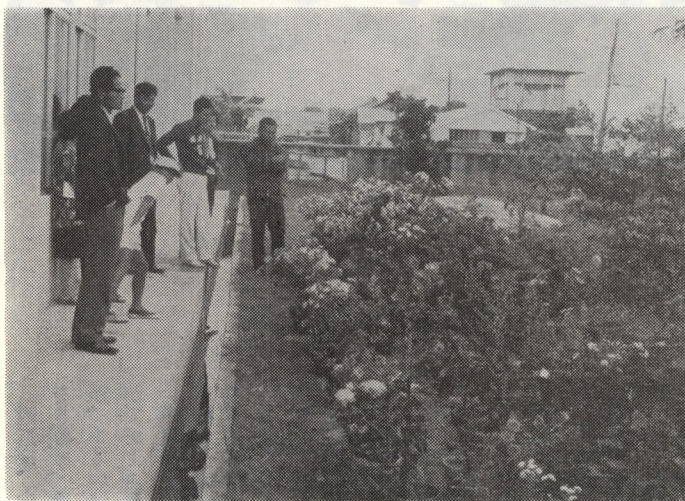
▲坂田小学校

〔作文〕

佳作：よなみねかずえ(二年)

〔図画〕

優良賞：城間秀美(三年) 屋良み



鉢の一の愛の生徒たち

家庭で育てても
らった、その花鉢
を十一月二十八日か
ら三〇日にかけて
学校に集めてもら
い一鉢運動が実施
された訳です。
花は、四七九点
出品され、中菊、

小菊、色とりどりの菊の鉢があたりをうめました。

花は正直で、手入れされているもの、されてないものとは一目瞭然

で、生徒たちの日ごろの心づかいがいか程のものか、それぞれの花鉢が、ささやいているようでした。

桑江良政教頭先生は、五百点近く

も出品された菊の花園をさも満足げに見ながら、来年からは、花園コンクールと合わせてやって行きたいとの抱負を語っておられた。

告 知 板

西原中学校体育館

建設に協力しましょう

西原中学校（松田州弘校長）では創立十五周年記念行事の一環として、体育館建設が計画され、去る八月三十一日起工式が行なわれました。

完成は来年の五月に予定されており、竣工のあかつきは日頃の生徒たちの、体育の学習はもちろんのこと、卒業式や学習発表会等の学校行事や、PTAの諸会合、その他村内各種団体の社会体育面の利用等、その活用範囲はきわめて広範で、教育の進展に大いに期待されております。

同体育館は、人口増加の将来を考慮し、現在の在籍を上回る規模のものであり、その上新たに敷地の購入拡張等一億三千余万円の巨費を投じて建設されます。

建設に用いる予算は莫大でありそのために、内部の備品や周辺環境整備に用いる費用の確保のために、村民に働きかけるという意味で、九月に「西原中学校十五周年記念体育館学校環境整備期成会」という組織が結成されました。

会長には、同校PTA会長の親泊輝武氏が選出され副会長には村体育協会長の平安恒政氏、同じく副会長に同校長、松田州弘氏が選出されました。

その他、顧問、とか理事、監査委員に村内の各団体の代表者が網羅され、成果の程が期待されておりますが、村民にあっては、こうした将来の永きにわたって、学校教育、ひい

ては、私たちの社会教育に、大いにプラスの働きをする体育館の建設資金の調達に、いくばくなりとも御協力下さるよう、強く呼びかけられております。

我が子の教育の充実のために、そして、本村の教育の発展のために、私たちそれぞれの力に応じて体育館建設のために、できるだけの協力をしようではありませんか。

事務局長は与那嶺安弘教頭がつとめ、会計は書記の比嘉美枝子さんがつとめております。

体育館建設について、何か御連絡がありましたら電話二四〇〇番までおかけ下さいませ。

保健ニュース

次にかかげる日程で、健康診断、予防接種が行なわれますので、該当者のみなさんは忘れずに村役場で受けるよう案内致します。

▲十二月十七日：保健

所医師による乳児の健康診断

●受付 午後一時～二時

▲十二月二十三日：D

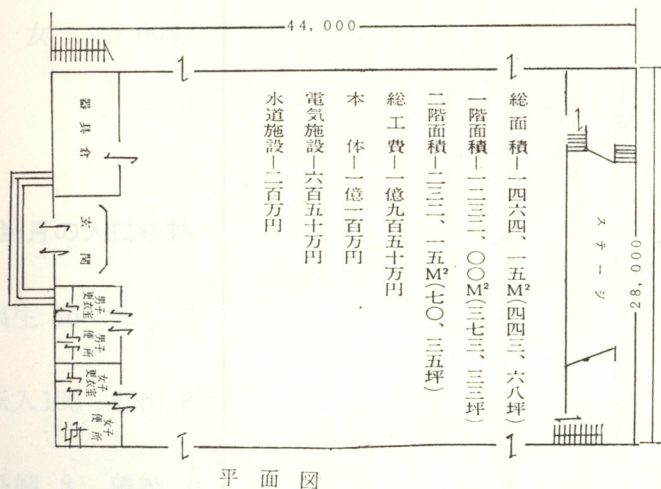
PT予防接種

●午前九時～十一時

まで

▲毎週火曜日、午後一時～三時まで育児相談が行なわれています。

赤ちゃんをお持ちのおかあさん、どうぞ御利用下さい。



平面図

事業計画

一、体育館内部施設費

一二、九九〇、〇〇〇円

1 体育施設費

五、六〇〇、〇〇〇円

2 舞台装置費

一、九二〇、〇〇〇円

3 放送施設費

八五〇、〇〇〇円

4 一般備品

四、六二〇、〇〇〇円

二、校内環境整備費

一、〇六〇、〇〇〇円

三、記念誌並に式典費

九五〇、〇〇〇円

計 一五、〇〇〇、〇〇〇円

募金総額 一五、〇〇〇、〇〇〇円

